



東京都家庭業工業協同組合会報

かていやく

平成4年8月 通巻51号



佃煮屋

かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、よって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章（目的）第1条より

目次 通巻51号 1992年8月30日

ごあいさつ	堀 泰助	3
特別企画 漢方・家庭薬むかしばなし		4
対談 土田茂雄：津村重舎		
反魂丹縁起の真実②	松井寿一	13
大旦那との初取引	小林岩水	15
委員会だより		16
薬事、GMP、流通、広告、労務、 総務・財務・事務改善		
会員会社訪問		
エーザイ株式会社		18
大木製薬株式会社		19
株式会社オーヤラックス		20
河合製薬株式会社		21
追悼・故宇津副理事長の遺徳を偲んで		23
べに花路を訪ねて	旦 正昭	24
グラビア		26
事務局だより	事務局	28

表紙題字・津村重舎 最高顧問

カット・堀 泰助 理事長

表紙絵・渡辺 徹 日本薬剤師会専務理事
昭和40年3月、静岡県立薬科大学卒業、同年4月厚生省入省、薬務局安全課長及び審査課長を歴任し、平成元年6月退官

製品の開発と自販力の強化を

理事長 堀 泰助



理事長再任に際し一言ご挨拶申し上げます。
第45回通常総会後の臨時理事会におきまして、理事各位のご推挙を戴き、再び理事長の重責を担うことになりました。もとより浅学非才ではありますが、家庭薬業界の発展に微力を尽くす所存でありますので、旧に倍してご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

さて、医薬品業界を取り巻く環境は誠に厳しい状況にあります。大手製薬メーカーの3月期決算を見ましても、各社総合の業績内容では、売上げは4.3%上昇したものの、利益は2.7%減少し、一部を除いて増収減益になっております。売上げの伸びは、薬価改定前の仮需要が寄与し、収益の悪化は、研究開発投資をはじめ経費の増大によるものと分析されております。

また、平成4年度の業績見通しにつきましても、売上げは前年度並の伸びを予測しておりますが、利益は大幅な薬価引下げの影響によって横這いで、業績の回復は期待できないとの見方が大勢を占めているようであります。

このように、医薬品業界は低迷している中で、流通の近代化、漢方エキス製剤の再評価や漢方生薬製剤のGMP上乘せ基準の実施など重要課題が山積しております。

医療用医薬品は、本年4月より新薬価算定方式による薬価の全面改正が行われ、さらには独禁法のガイドラインに沿った事後値引補償を廃止した新仕切価制へ移行され、完全仕切価制が定着するよう鋭意流通の改善が進められているところであります。

一般用医薬品においても、流通の改善は避けられない問題であり、再販制度の段階的廃止による乱廉売の防止対策等と共に、真剣に

対応しなければならないと考えております。

高齢化社会を迎え、国民の健康に対する意識の高まりとセルフメディケーション思想の普及によって大衆薬が見直されてきていることは喜ばしい限りであります。

大衆薬が国民の医療に果たす役割は極めて重要になっており、それだけに、優れた大衆薬の開発に寄せる国民の期待は大きなものがあります。

家庭薬業界は、こうした社会のニーズに応えられる独自性のある製品の開発あるいは伝統薬の掘起しに精力を傾けて、家庭薬の特長である、安全で確かな効めの製品を提供してこそ使命が果たせるものと思っております。

家庭薬は、スイッチOTCや他産業からの参入によって伸び悩んでいるのが現況であります。この厳しい市場競争に打ち克つためには、「自社製品は自らの手で売る」という意識改革が必要であります。

そのためには、二次消化のためのMRによる情報活動と三次消化のための広告宣伝活動は、販売促進に不可欠な手段であると考えております。

つまり、健康に奉仕する家庭薬として、信頼される製品の提供と自販力の強化こそが、家庭薬の活路を開くものと信じます。

組合員各位の事業の繁栄なくして組合の発展はあり得ません。この厳しい変革の時代を乗り切るために、当局のご指導と組合員各位のご協力をいただきながら、当組合のさらなる充実と発展を目指し、決意を新たにして事業を進めてまいりたいと存じますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特別企画・対談

漢方・家庭薬むかしばなし

株式会社紀伊国屋漢薬局代表取締役
東京都家庭薬工業協同組合最高顧問
司会 東京都家庭薬工業協同組合専務理事

土田茂雄
津村重舎
三浦重博

大正から終戦までの家庭薬……

売薬印紙税法

津村 何でも、あなたが知っている一番古いことから始めて下さい。

土田 私が紀伊国屋に入ったのは大正10年です。

津村 その頃のことは皆あまり知りませんからね。

土田 そうですか。

司会 堀理事長が、土田さんは大正の頃から薬業にタッチされているはずだから、それから昭和の終戦までの家庭薬のことを…

土田 この間、いただいた家庭薬の会報を見たら、津村の会長さんが印紙税の撤廃のことをお書きになっていましたが、大正時代はみんな売薬に印紙を貼っていました。

司会 会報の50号に山梨県医薬品卸協同組合理事長の小林岩水さんが売薬印紙税法のことを書いていらっしゃいまして、たまたま津村最高顧問の「家庭薬今昔ものがたり」と一緒になりました。

津村 なぜ、私がそんな話をしたかと言いますとね、私が大正10年に小学校を卒業したんです、幼稚舎を。その時、大正10年に帝劇を借り切ってうちのお得意さんを招待して25周年の謝恩会をやったんです。その時に印紙税

撤廃の運動を始めようと、宣言しているんです。

土田 家庭薬の前身は売薬ですからね。だいたい売薬そのものが出たのは歴史的に言って古いんですね。千葉さんなんかの歴史を伺うと300年の伝統があると。何か昔は菊のご紋章をお上からいただいた、看板みたいなものが薬の展示会なんかにお出しになったのを見たことがありますけど。

津村 近頃のようないわゆる売薬制度という近代日本になってからのその歴史はいつ頃でございましょうかね。

土田 売薬は医者にかかれなくても治るといような薬ですから、品種別に分けますと、非常に多いんですよ。風邪薬から始まって膏薬類に至るまで、おのおの薬効が違うわけですから。

これは「薬種商全書」といましてね、薬屋





に小僧に行きますとね、薬を覚えるのに、みんなこういうので勉強したものです。その当時の広告がそこに出ていますよ、ほら中将湯……。

津村 しかし、このマークはだいぶ新しいですよ。

土田 それは昭和の始めの頃じゃないですかね。

津村 そうでしょう。このマークにしたのは関東大震災の時に変えたもので、それまでは巻物を持っている中将姫の昔の姿だったんです。

土田 関東大震災は大正12年ですよ。

津村 この原画は高島華宵が描いたんですよ。この時マークを募集したんですけど、結局いいのがなくて、じゃあ私が描きましょうって華宵が描いたんです。

土田 とにかく、あの時分には仁丹が、ピスマルクの大礼服の帽子を被っているのとか…。ところで大正時代の風邪の薬というとね、ピリン剤が多かったんです。中沢のアンチピリンなど。ピリン剤が多かったですね。今はもう許可になりませんが、だいたい風邪の薬というとピリン剤。

その次に移るっていうと、守田宝丹の守妙の風邪の振出し。振出しは津村会長さんの所の中将湯をはじめ、実母散、これがみんな煎じなくても生薬をあぶってですね、それを寒冷紗の袋に入れて熱湯をさして飲む、だいたい簡単に婦人薬としても飲めるし、風邪の薬としても……まあ、身体を温める薬ですよ。

司会 ちょっと法律を調べてきたんですが、法律的には、明治10年「売薬規則」が制定され、以来しばしば条文が改定されたのですが、規則改定の要望が強かったため、大正3年に「売薬法」が公布されました。

「売薬規則」が発布されたのは、当時、民間に売られていたものは、弊害の少ない、いわゆる万病薬で、これに制限を加えようとしたが、その効果が上がらなかった。そこで明治15年に「売薬印紙税規則」を公布して、その利益に課税したと、薬事法逐条解説で読んだことがあります。先ほどのお話ですと、大正10年頃、撤廃運動が起こって大正15年に廃止されたのが「印紙税法」の歴史のようですね。

土田 津村会長さんのお話ですと、日露戦争で樺太を取ったために政府に金が要るので税金として使ったと。

司会 小林岩水さんのお話ですと、日露戦争でお金がかかり過ぎちゃったから税金を取るためにやったと。

津村 両方、正しいんでしょう。

ソバ屋・豆腐屋の薬、膏薬

土田 その時分は昔の言葉で言うと、蕎麦屋の一服薬、豆腐屋の指薬とかいってね、何でも誰でも許可がもらえたらしいんですよ。それで漢方医学をふたつに分けますと、後世派と古方派に分かれているらしいんですよ。後世派というのは中国から来た処方古方派というのは、今、皆さんがよくお使いになっている小柴胡湯とか葛根湯とか三黄湯とか、簡単な処方できているのが古方で、これは江戸時代の中期に張仲景という方の考え方(傷寒医学)が日本に入ってきて、日本では吉益東洞という医者が漢方の研究をしながら使い方を日本人に合わせた歴史があるらしいんですよ。

矢数道明先生に何うと江戸中期に改めて研究して作った物だと……。ですから後世派と



いうのは配合成分が多いわけですよ。それと、売薬系統はだいたい後世派に属しているんじゃないですか。

膏薬というのはね、あれは吸い出し膏薬があり、貼り薬がありね。昔の相撲さんが戻ったに万金膏という真っ黒けの膏薬を貼って。今、みっともないからお尻やなんかに貼りませんけれど、昔は万金膏。それから我々が若い時分には、ひび、あかぎれの切れない者はいないんで、火鉢で火箸の先をあつためて膏薬を貝殻から出して火箸の先であかぎれの割れめに入れたもんです。

司会 私でも使ったことがあります。

土田 ひび、あかぎれは店の者にはつきものですから。その膏薬の原料というのが鉛丹、鉛ですからね。長吉丹とも光明丹ともいいます。とにかく丹なんですよ。よく建築材料の錆止めには赤いのが塗ってありますね、あれが要するに鉛丹の光明丹なんですよ。

津村 それが膏薬の主な原料。

土田 ええ、それが入らないと吸い出し膏薬に効かないわけですよ。

津村 吸い出しの方。

土田 ですから生薬としますとね、胡麻油の中に当帰とか大黄とか白芷という物を入れてすっかり沸騰させて抽出して、煮上がったと

ころへ今度は、それを冷ましてまたさらに、沸騰さして鉛丹を入れて。鉛丹を入れると非常に真っ黒い煙が出て、泡が出て危険性があるんですよ。それでそこに丹を入れて固めると膏薬が出来るわけです。

よく相撲膏とか弘法のお灸といまして、昔の人は背中にお灸の跡がありました。今、お灸というと釜屋の大とか中とか小とか切りもぐさになっていますが、昔はああいうのを吸い出すのにこれを使ったわけですね。その原料というのは鉛丹を入れないと煙らなかったんですよ。大正年間に町田のたこの吸い出しがありました。あれは鉛丹が確か入っていないんですよ。

気づけ薬

津村 土田さんは原料の方をよくご存じだから。

土田 原料もメーカーさんでお作りになった物も、店頭で売ってましたからね。ですから店頭に出ているあらゆる物は、たいいてい私も覚えております。清涼剤では、仁丹に清心丹に宝丹に、確か水天宮の側にカオールというのがありました。

津村 それから千金丹もありましたね。板千

ヨコのようなやつです。

土田 割って口に入れるものがありましたね。

津村 うちでも作っていました。

土田 その当時はどの店でも許可を幾つも幾つも持っていましたね。うちあたりでも昔からのを20処方、30処方くらい持っていたものなんです。ですから、今申し上げた吸い出し膏薬とか黒雲膏なんて一通りの薬は若い時分から作ったものなんです。それがみんな結局、吸い出し膏薬になるわけですね。

津村 そういう物はお家で混ぜて売っておられたんですか。それとも……。

土田 自分の所で売薬の許可を取った物は作って売っていましたし、それから大正時代は売薬王国の時代だから、なんてったってお店で売れる物は商売だから商わなければいけないので……。

とくに同じ売薬といっても中将湯があり、実母散があり、実母散も千葉さんと喜谷さんの両方あったんですからね。それからさっきお話した池の端の宝丹で守妙というのをお出しになったの、あれは婦人薬じゃなくて風邪の薬でお出しになった。

津村 そうですね。守田宝丹はうちの親戚です。

土田 そうですか。とにかく宝丹さんの歴史を伺うと、あれはコレラの予防薬として作ったそうですね。物凄く売れたらしいです。

清涼剤で売れたのは、仁丹さんで別格ですよ。清涼剤はね、あれは煙草と同じであれを二つ、三つ噛るとね、今でも玉置新治さんが、口の中に入れて噛んでますよ。癖になっちゃうんですよ。

津村 あれはセンナが癖になるんでしょうか。

土田 いや、あれは清涼剤ですからね。

津村 あの苦いのは何でしょう。

土田 あれは阿仙薬でしょう。

津村 なんか阿仙薬がちょっと癖になる味ですね。

土田 ちょっと苦みのある。

津村 そうですね。ちょっと苦くて、甘かったりして麝香みたいな匂いがありますからね。

土田 それでだいたい甘味のあるのは甘草でしょうね。甘草にメントールかなんか少し入って。

津村 カオールもよかったですね。恰好も変わっていて。

土田 あれはちょっと容器の形が変わっていましたよ。

津村 清心丹も。

土田 清心丹は高木さんがやってらして、あれはちょっと中身が濃いですね。

津村 あれは本当の漢方、生薬を混ぜた感じですね。

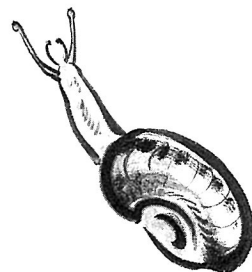
花柳病的な効能書

土田 それから大木さんの五臓圓ね、あれは歴史的に古いんです。両国にあったそうですね。昔は、300年位の歴史があるんじゃないですか。

津村 大阪では五龍圓というのがあって、浮田さんも古いですね。

土田 関西と関東とは同じ売薬でもめったに関西のは東京では出なかったですね。宣伝が違ったからかもしれませんね。七ふくというのは今でもありますね。結局、下剤ですわね。その当時に流行った毒掃丸とか金宝丸とか、花柳病的な効能書をつけていた。

津村 そういう毒も流しちゃう。





津村重舎最高顧問

土田 梅毒とか淋病だとか何でも効能書が許可になった時代だから、若い職人さんが吉原に行ったり、方々に行ったりして、いろいろ汚れだとか病気になるといって、それが効能書に付いているからいいんだらうと、皆、飲んだんだけど、今、考えてみると下剤ですわね。大黃が主剤で山帰来か忍冬が入っていて、それに付随したような処方になっていて、どこでもだいたい一致して。

津村 一時、有田ドラッグが随分ありましたね。

土田 18歳未満の者は入っちゃいけないとかね。中に入ると、今でいうロウ細工のような物で首の所にオデキが出来たり。

津村 そういふのを見せてね。あれは白檀油でね。効かないけれど、飲むとすぐ小便の色が変わるといふので、あっ、毒が出たって皆、喜んで。

土田 白檀油がひと頃、何か淋病かなんかに。

津村 ええ。それが有田ドラッグに入って来たんです。実際にいいいって使われていたんですね。今から見れば本当に良かったのかどうかちょっと怪しいですけど。

片仮名の薬の登場

土田 今、ちょっとお話のついでに思い出したのがね、タカジアスターゼ、それからビオ

フェルミン、それから三共の桜の皮から取ったプロチン。あれが大正年間に出た。それは名前から言っても新しい薬でしたね。それから頭痛膏なんて言って、女の人がこめかみに貼り付けて、よく梅干しを年とった人が付けてましたよね。

津村 昔はね。

土田 それと同じように江戸桜とか何とかいう名前で、切ってこめかみに貼って、要するに薄荷湯なんか入っていてスースーする貼り薬がありましたね。今度は打ち身、挫じきの話になるけれども、一番最初に出たのがチョイスコウとか妙布とか。そのうちにトクホンが出て、そういったような物がだんだん出てきたわけです。それから新しい物でいうと、近江兄弟商会のメンソレータム。これが出てきましたね、大正年間に。

司会 あれは大正ですか。

土田 あれは売れたんですよ。メーカーさんが財を成したのは、ほとんど自分のところの製剤でひと儲けなさったんじゃないですか。津村会長さんのところでも中将湯で……。

どの程度その時売れたかどうか、私どもの店でも分からない位だったから。実母散系統も売れたし、とにかく、お客さんが買いにくるといって、そういう物が売れたんですから。

津村 トクホンさんは。

土田 トクホンさんは新しいですね。戦争中くらいから、よく売れましたね。サロンパスがあとから。

津村 サロンパスの方が早いんじゃないですかね、僕はそう思います。うちの会社が上海にあったんでね、サロンパスをあそこで売りました。日本から送って、九州から近いものですからね。

土田 それから夏になると、シッカロールって、和光堂の。その前には徳田のあせ知らずというのが。

津村 天花粉だね。

土田 天花粉と亜鉛華が何かが入っていて風

呂上がりに付けたのがあります。

津村 天花粉というのは、今でも中国の特産の生薬として、ありますけど、あれは本当に軽くて。

土田 あれはキカラスウリの根ですわね。栝楼根の根を精製したものが天花粉です。

津村 非常に澱粉が細かいんですね。非常にスルスルするんですね。

胃の薬・目薬・強心剤

土田 それから胃散がありましたね。太田さんが非常に歴史が古い、その前に一番売れたのが星胃腸薬。

津村 その前はロート製薬ですよ、胃活。

土田 健康というのもあったでしょう。どこか神田の方に。福井さんがやっていた健康というのが。

津村 どっちが古いか分かりませんが、ロート製薬の前身が胃活ですから。

土田 よく出てましたね。

津村 それと星の胃腸薬は割りに遅いんですね。胃活を売り出したのは、うちが創業して2、3年してから。山田の伯父が独立して大阪で胃活を売り出した。本町にあったのはヘルプです。ヘルプは津村岩吉で、うちの父の弟です。父の兄が山田安民でロート製薬に名前を変えたんですけど、その前は胃活です。山田安民薬房、うちは津村順天堂、叔父のうちは津村敬天堂、ヘルプ。

土田 山崎さんの三兄弟がね、上田に山崎三林堂があって、馬喰町に髭をこんな風に生やして、毛はえ薬ですか。

津村 愛国堂、帝国堂、三林堂。

土田 これが三兄弟。

津村 そうです。愛国堂が一番上です。山崎さんの愛国堂と太田信義さんたちが電通を作ったんです。それでうちが当時、創業の株式を引き受けたんです。僕はまだその株を持ってる。売らないで頑張ってる。



土田茂雄社長

土田 その当時、帝国堂の山崎嘉太郎さんがね、明治時代に信州から出てきて、昔は追い剥ぎとか、何とかがいるんでね、地下足袋の下にお金を入れてね、それで東京に出てきて、毒掃丸というのは後からやったんです。綺麗水というのが流行ってね。

津村 当って、それが髭ですよ。

土田 親父さんが今で言うチンドン屋みたいなことをやってね、宣伝したらしいんですよ。

津村 山崎嘉太郎さんとはお親しくしていただきましたよ。

土田 なかなか社交性のある方でね。

津村 そうですね。面白い方ですよ。体格の立派な方でね。

土田 ひと頃、随分と発展なさって、今の商工会議所の会頭になったりして。南洋方面にも進出したなんてことも聞いてますけど。商業的な商術がなかなか長けていて。

津村 そうですね。

土田 それから、ついでにお話ししますが、目薬がありましたね。大学目薬、ロート目薬、それからスマイルなんてのは後から出来た。それから、こういう小さな貝殻の中にモミの真珠目薬ってね、赤い絹の中に真珠の粉か何か、入ったんだと思いますが、お母さんのおっぱいを貝殻の中に入れて、その中の薬をおっぱいで溶かして目に付けて、真珠目薬って言って真珠が入っているんじゃないかな。そ

ういうのもありましたよ。

津村 もっと古いのは精綺水ってのが。

土田 ありました、ありました。岸田の。

津村 あれは大道芸人みたいのですね。独楽回し。

土田 それから、京橋になんてしょ、白井瓢箪屋という、神効丸かな。それから腰下げと言ってね、こうもりの糞が寝小便の薬でね、腰にぶら下げるのがありました。白井さんがやってたの。夜尿症、コウモリの糞を腰に下げていると、夜尿症の薬だと言って。

司会 飲むんじゃなくて下げるの…

土田 おまじないみたいな、そういう物もありましたね。

津村 白井さんも面白い人ですよ。

土田 戦後、ヒサゴさんになったんです。

津村 そうですね、ヒサゴさんと一緒になったんでしょう。

土田 我々も十代から店に出て、皆さんの薬を引き出しに入れておいてね、みんな売ったもんなんだけど、その当時、一番売れたのは救命丸、子供さんのね、宇津救命丸。

うちなんか歴史は古いんですけど、宣伝というのはやらないんです。これは牛の王様になってますけど、本当は牛黄丸なんです。ところが厚生省で、薬名を使っては駄目だというのでね、牛黄丸と読ませるのにどうしたらいいだろうと考えてね、じゃあ、王様の王にしよう、それで許可を取ったんです。これは先祖から伝わっている薬なんです。麝香と牛黄で救心さんと同じなんですよ。



司会 救心さんは今年80年でしょう。

土田 六神丸はね、亀田の六神丸と中国から来たというのもあるんですよ。それは紫の布の箱に入ってね、中へ角の容器がある。中国のは左巻きなんですよ、左へねじると閉ってね。日本は右でしょう、向こうのを知らない人がいくら左へひねってもあべこべで開かないでね。

六神丸を2粒、舌の上で噛むと舌上鈍磨と言ってね、ぴりぴりするわけですよ。なぜかというセンソが入っているんです。

津村 センソは強心剤でもあるんですよ。

土田 そういう物がその当時は売れたわけですね、高貴薬として。その時はテレビもなければラジオもないので、宣伝はほとんど新聞ですよ。

一番高い売薬

津村 それから、あれもありましたね、浅田飴。

土田 咳の薬という浅田飴さんね、堀内さん。

津村 あれは浅田宗伯先生のでしょうか。

土田 そういう話ですけど、大正天皇様が若い時に身体が弱いので、浅田宗伯先生が侍医として面倒をみて、その時に浅田飴を処方してさしあげたか、教えたかして浅田飴を作ったと。堀内伊太郎さんと、今の神田駅のところから横に入ったところに工場があってね。今は村山の方にあるんでしょう。

津村 堀内さんは遠い親戚になるんですよ。面白い親戚なんです。小田原に二見さんという古い網元がいて、その長男さんは堀内敬三なんかと音楽をやって、外交官でね。

土田 敬三さんは伊太郎さんの弟さんですよ。

津村 それと、太田黒元雄さんの三人が親友で、始終あそこに入出入りしていて、その二見さんの弟を養子にもらったんです。私の姉夫

婦が。岩吉さんの奥さんが早くなくなったので、3人いた子供の2人、一番下の女の子をロート製薬に、一番上の女の子をうちの養女にしたの。二見さんのその旦那で、その長女が伊太郎さんの最初の奥さん。早く亡くなっちゃったの。それで次男の家へ養子にいただいたので、堀内さんと繋がりが出来たの。宝丹さんはね、従兄弟を養子に入れたの。だから、あそこも親戚になります。

土田 銀座の松屋の前のマルハチ松沢、あれは古いんですよ。昔はよく薬屋同士で見習いに出したり、来たり、交流があったんです。うちあたりもマルハチさんの人が見習いに来て、うちからもマルハチさんへ見習いを出したりしましてね。松屋の地所をマルハチさんが持っていてね。今は小さく㊦と書いてあるけど、碁盤だの、筆だの、墨だの…。

津村 それからお香も売ってましたよ。マルハチさんも古いですね。

土田 あの時分、マルハチさんの旦那さんとよく会いましたよ、人力車に乗ってね。

津村 銀座には精綺水がありましてね、目薬の。話だけ聞いていますけれど。

土田 白井さん、瓢箪屋の神効丸、それから宇津の救命丸系統だっという加須の疝の薬、それから奇応丸というのがありましてね。

司会 奇応丸というのは、関西ですか。

津村 大阪でしょう。

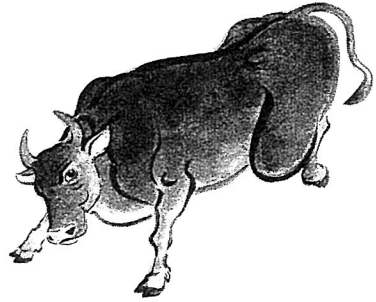
土田 売薬で一番高いのはね、富山かどっかでこしらえた烏犀角圓というの。

津村 烏犀角ね、犀の角ね。

土田 普通、1円という最高値段なんです。膏薬が10銭か20銭だから、売薬という20銭か30銭か50銭。1円の金額を今になおすと1万倍だから1万円ですね。1円の薬が売れるのは、それこそ1日に1人か2人しかいない。その時分、烏犀角圓というのが2円か3円したの。

司会 そんなにするんですか。

津村 それがよく効くの。汗疹とか湿疹が出



る前に熱が出るでしょう。その時、飲ませるとスウッと下がっちゃう。

高村光雲宅へ

土田 私が15歳の時に千駄木に高村光雲さん、光太郎さんのお父さんが住んでまして、それで、お母さんが、紀伊国屋さん、牛王丸を持ってきてくれっていうんですね。そして、私子供の時分、3つくらいから、あなたのところの薬を飲んでいるんだわよって、私に話したことがあるんです。で、届けにいくと、光雲さんは彫刻の大家ですから、工房があつてね、白檀でいろいろな彫刻をお弟子さんがつくっているの。光太郎さんが十和田湖の側に銅像を造って、奥さんの千恵子さんが頭が狂ってね。

津村 どこに住んでいたんですか。

土田 千駄木ですね。団子坂というところがあつて、あそこの坂を左の方に上がりますとね、昔の肴町、今は向ヶ丘、ちょうど白山から、こっちへ出たところ、東大の先の方ですな。そこに住まいがあつて。

津村 大正何年くらいですか。

土田 10年くらいですね。

津村 あなたが東京へ来られてすぐくらいですか。

土田 私は生まれは群馬なんですけどね。

津村 群馬のどこですか。

土田 富岡というところなんですけどね。明

治5年に政府が初めて製糸工場をフランス人の指導で造った製糸所があるんですよ。

大正年間は今電化製品や自動車と同じように生糸業が盛んだったんです。輸出がほとんどで、その時分ですから。

長野と群馬、海なし県だけ養蚕県で、そこへ、その製糸所を建てた。それが横浜に原さんという方がいて、原製糸所になり、終いには片倉になったんですけどね。

今もその当時に作った建物が残っています。市の文化財として。

私の叔父さんが、土田家に子供がなかったから、養子に貰われて来ましてね。私が学校を卒業すると、話し相手がいなくて寂しいからお前すぐ出てこいということで呼ばれて。

津村 大正10年に15の歳で、そうですか。

土田 それでその人がちょうど22歳で、私が15で。ところが私が23の時に30歳で急性盲腸で亡くなって、どうしても私が跡を継がなくてはいけなくなって、その時に跡を継がされたわけです。

津村 私には本当は兄と姉がいたんです。子供の時に亡くなって、それで私が長男になっちゃった。残念だけれど、次男で遊び歩けば

よかったけど。

土田 私も長男で、土田家に入籍する時は除籍裁判があって、田舎だし、長男だから。高崎の裁判所で形式裁判でしたけど、親同士が取り決めて本人の意志がないと、3べんくらい裁判所に行きましたよ。そこで、おまえが自分の意志で決めろと。私もどっちの親にしてみても親は親だと思ひまして、自分の気持ちが変わらなければどっちも親なんだからと思って、土田の方へ行きたいといったら、いいだろうと言うことになりました。

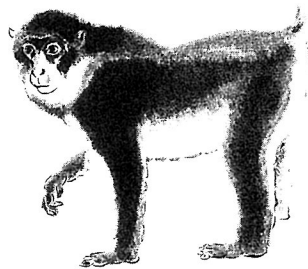
津村 昔は籍を抜くなんてことは大変なことでしたよね。

土田 親父は商人でしたから、分かっていたんですが、お袋は泣いてね。

津村 それはそうでしょうよ。お母さんにしてみれば、子供を手放すことはどんなに辛いかな。今の人だってそうですよ。

土田 まあ、姓は変わっても親の気持ちも変わらないんだから、私としてもお袋に対しての気持ちは変わり無いんだから、と納得させてお袋に泣かせてね。

(次号に続く)



反魂丹縁起の真実②



医薬ジャーナリスト 松井寿一

古くから伝わる薬には、必ずと言っていいほど創薬の秘話がある。越後の「毒消し」には二つも三つも秘話があって、どれが本当か決めかねるほどだが、「宇津救命丸」や「薬用養命酒」には似たような話で、定説がある。行き倒れになった旅人を親切に介抱したら、そのお礼に薬の処方を受けて去った、というものである。

前号で「越中反魂丹」の縁起について書いたが、どうも不確かなのでよく調べ直して、改めて書くと約束した。その約束を今号で果たすことが出来そうである。

「薬の文化誌」（丸善ライブラリー）が出て間もなく（1991年6月）、岡山県の万代常閑さんから電話があり、反魂丹のルーツは岡山にある、とのこと。後日取材に伺うということで電話を切った。その後どうなったかは二冊目の本「薬の社会誌」に詳しく書いたが「かていやく」の読者の皆様にお約束したので、かいつまんで反魂丹縁起のルーツについて紹介したい。

現在、岡山県備前市西方^{にしきたかみ}上で内科医院を開業している万代常閑さんは21代目である。残

されている「ご先祖書き」その他の資料から判ったことは、足利幕府時代、ご先祖は泉州界の代官をつとめていた。

初代に当たる人は毛須^{もすどの}殿と呼ばれていた。これは領していた一帯が毛須え荘と言われていたからである。この発音のまま万代^{もすどの}にあてはめられたので、富山では万代常閑と呼ばれることになった。

当時の堺は御朱印船貿易の唯一の窓口であって明国の船が出入りしていた。あるとき、その明国の貿易船が堺沖で遭難し、代官の万代掃部助^{かものすけ}をはじめ役人、民間人が必死の救助活動を行った。

数多くの人命を救って、へとへとに疲れた体を横たえると、掃部助の枕元に、日頃崇敬している氏神様の八幡神（大阪府堺市に現存する万代八幡社の神様）が現われた。

そして「明朝、お前が助けた唐人の船長が、立派な絹織物を持って礼を言にくる。しかしお前はそれを受け取ってはいけない。丁重にことわれ。すると困った船長は、秘薬の処方を教えてくれるから、それをしっかりと聞いておけ」とお告げになった。

掃部助は夢かうつつか幻か定かではなかったが、翌朝めざめると、そのことがはっきりと頭に残っていた。しかも事態は神様のお告げのとおり運んだのである。

唐人は大勢の生命を助けてもらったお礼にと、これまで掃部助が見たこともないような見事な錦織物を持ってきた。並居る者がこぞって感嘆の声をあげたほど、それは目にも綾なる立派さであった。



しかし神様のお告げでは有難く頂戴してはいけない物である。掃部助は我とわが身に鞭打って断乎ことわった。唐人の船長との間で押し問答があったが、どうしても受け取らない掃部助の気迫に押されて錦織物を引っ込め、それでは代わりにと秘薬の処方教えと言った。

氏神様はそれをこそしっかりと聞いておけと言われたので、掃部助は有難く拝聴した。これが「万代八幡宮御夢想神方延寿返魂丹」である。

初代が病死したあと二代目は甚右衛門といい、これといった波乱もなく生涯を終える。三代目の主計のときに大波乱が起こった。応永6年（1399年）現在の山口県を領していた大内義弘が反乱を起こし、堺浦へ上陸してきた。時の將軍・足利義満は大軍を差し向け、大内氏は呆っ気なく敗死。

告げ口する者がいて万代主計が大内氏を手引きした、となってしまった。八方弁明したがる將軍義満の怒りはおさまらず、一族郎党は丹波国へ落ち延び、やがて備前国は和氣郡益原村の源濟寺へと身を寄せた。

和氣の地は日本史上有名な和氣清麻呂の故郷である。皇位を狙った弓削道鏡を敢然として斥け、皇統連綿を守った人として名を残し

ている。和氣氏はかつて丹波氏と共に医をもって朝廷に仕えており、この地一帯に医・薬の気風が漂っていた。

万代主計はここで武士を捨て、初代が唐人の船長から伝授された延寿返魂丹を製造し、医薬で身を立てることを決意した。万代を「もず」の呼び名をやめて「まんだい」とし、名も常閑と改めた。永享5年（1433年）、波乱に富んだ生涯を閉じた。

第11代常閑のときに、延寿返魂丹の処方が越中富山藩へ伝わることになる。藩主の前田正甫公は英明な方で、自ら薬草について学び栽培されたが、腹痛が持病であった。

長崎留学から戻った日比野小兵衛という家臣が、万代常閑に分けてもらった延寿返魂丹を正甫公に差し出したところ、忽ちにして腹痛が治った。驚いた正甫公は備前に使者を出し、万代常閑を丁重に迎え、3年間滞在させて処方、調合、製薬を伝授してもらった。

家伝の秘薬は、他へは決してもらさないものなのに、なぜ常閑は遠く離れた富山まで来て教えたのか、販売方法まで伝えたということで、謎は深まるばかりだが「越中返魂丹」がここに誕生したわけである。岡山は「返」富山は「反」と字が違っている。ここには何か秘話があるのかも知れない。



大旦那との初取引

山梨県医薬品卸協同組合理事長 小林 岩水



当社は創業以来、家庭薬の専業卸を継続し現在に至ります。昭和の初期、当時は上野の池の端、守田宝丹の守田治兵衛商店をはじめ、その他のメーカーと直接取引をしており、取扱商品の半数くらいは、当時からご懇意で日支事変の頃、南京、漢口、そのずーっと奥地の宜昌などで何回か会った玉置金八商店、後の源一郎社長様、福井薬業様、大木様の三間屋と取引していた。

太田胃散、当時の太田信義薬房とは取引がなかったのが、守田宝丹のご主人に話したところ、

「僕が話してやるから一緒に行きましょう」

早速、昭和5年秋、同行して氷川下町の太田様のお店へお邪魔し、ご主人と大番頭の中川様にご挨拶した。守田様が、

「今日、甲府の小林が来て、太田様とは未だ取引がないとのこと、僕の店の宝丹、守妙、ヒンターをよく拡売してくれるので、太田様も直接取引してより一層拡売していただいたらいかがでしょうか。よろしくおねがいたします」

太田様の答は

「当方では新取引は一切しませんけれども、池の端の^{社D}大旦那のお話ではお断りすることも出来なく、お取引をお願いします。小林様が売薬ご専業のことはよく聞いています」

隣の椅子にいた中川様も説明してくれた。

「それではご注文は」と問われたので、

「^{ニジュウマル ゴコオリ}二十〇五梱と^{ゴジュウマル ゴコオリ}五十〇五梱^{注②}」

二十〇は750個入り、五十〇は250個入りで、いずれも杉板の厚い木箱でバラ詰めになっていて、過去すでに玉置、福井などから仕入っていたので、概算計算して現金1,000円持参して、その場で800円、現金を差し出して

「これでご計算願います。」

と申したら、中川様が

「当店では現金販売は一切しておりませんので、出荷後、手形を郵送しますから、その手形を引き受け署名捺印して返送してください」とのお言葉で

「小生も初めてですから、今回だけはお受取り下さい、次回からご指示に従います」

と申したけれども、お断りの繰り返し。

守田様が、

「太田様はお金が充分あるとの評判ですから、太田様の指示どおりにしなさい」

その後、特別のご接待を受けて守田様と一緒に退席した。

当時の仕切り価格はメーカー仕切りが5.5掛、大手問屋の仕切り価格は5.8掛が通例であった。現品発送後、為替手形が送られてきて、計算したら小生の計算どおり756円25銭で、署名捺印して返送して一件落着した。

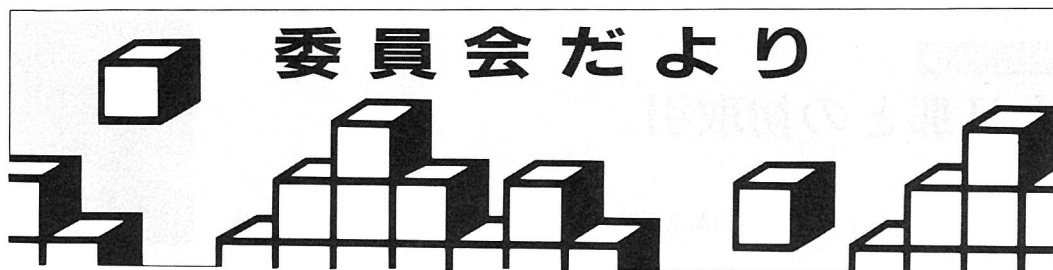
その後3、4年で代理店制度の仁丹、わかもとまで、家庭薬メーカー各店と直接取引を開始し、それにお応えして拡売に努力し、各メーカーからご厚意を受けたのは、現在も記憶に新しい。

大東亜戦争開始後、食料品に続いて医家向け医薬品の配給制、続いて売薬統制会社を新設し、本県の配給業務も担当、数年間、苦しい思いも続いた。終戦後、各メーカーとも引き続き特段のご支援、ご厚情をいただき、辛うじて現在まで営業を継続していることは感謝の極みです。

今後ともご支援をいただくことをお願いし、戦時中の配給状況はスペースの関係で省略し欄筆します。 (完)

注①当時はいずれも法人でなかったのが、東京の大手有名メーカーのご主人の敬称は全て大旦那だった。

注②当時、薬業者の間で二十銭を^{ニジュウマル}二十〇、五十銭を^{ゴジュウマル}五十〇、^{エンマル}一円を円〇と呼んでいた。



薬事委員会

委員長

喜谷市郎右衛門

薬事委員会の関連事項について、前回の委員会だよりでご報告した以後の状況について述べます。

1. 一般用検査薬について

一般用検査薬については、尿糖、尿蛋白の検査薬が昨年10月11日に一斉発売されたが、それに続き、本年3月15日には妊娠検査薬が承認され、現在製造面並に販売面での準備が行われており、7月1日には一斉発売が行われる予定である。

なお、一般用検査薬の発売後の精度管理は、業界が自主的に行うこととなったが、尿糖・尿蛋白検査薬については、本年6月以降に実施される予定である。

2. 一般用医薬品の製造承認基準案について

鼻炎用内服薬の基準案は本年4月、薬事審議会の調査会を通過し特別部会において審議が行われている。

また外用痔疾用薬の承認基準案は7月の日薬連薬制委員会にて検討される段階となった。

3. 日薬連の外用薬検討委員会について

昨年11月日薬連に外皮用薬の製造承認基準案作成のため検討委員会を置くことが決まり、家庭薬業界からは全家協で3名の委員を選び日薬連に通知した。

なお、我が家庭薬業界で外皮用薬を製造しているところは、その会社特有の製品を単品で作っているところもあるので、それらの会社の意見を日薬連の検討委員会に反映させる

ため、当組合の薬事委員会に外皮用薬部会を設けることになった。

4. 一般用医薬品の再評価について

この度、平成4年5月1日付で一般用医薬品再評価薬効群等の範囲の指定（その12）が行われたが、その薬効群は鼻炎用点鼻薬である。

日薬連の一般薬評価委員会では、従来同様に共同作業を行うことになり、去る5月15日付で、共同作業希望の会社は6月10日迄にその申込をされるよう通知を出した。

(ヒサゴ薬品株式会社 社長)

GMP委員会

委員長

山田正巳

現在GMPは国際化、高度化に向け各検討会にて検討されておりますが、日薬連GMP委員会の動向を中心に報告いたします。

1. 厚生省監視指導課検討会について

(1) コンピュータ使用医薬品等製造所適正管理ガイドラインについて

平成4年2月21日付薬監第11号にて課長通知として出され、現在Q&A作成のつめが行われており、7月に東京、大阪にて説明会が開催される。

(2) GMP改正ワーキンググループについて

5月のWHO総会でGMPテキストの改訂が決議される予定であったが、議案として提出されず改訂されなかった。

しかしワーキンググループとしては、原薬、体外診断薬を含め検討していくこととなりメンバーは日薬連（5名）原薬工業協会（4名）

日本臨床検査薬協会（5名）で構成され、検討されている。

(3) 凍結乾燥注射剤製造所のガイドラインについて

1～1.5年後作成を目途に検討されており、作成後、薬業時報社よりGMPテクニカルレポートNo.5として出版される予定。

(4) 医薬部外品GMPについて

殺虫剤工業会との調整は終了し、現在化粧品工業会と調整中。

(5) 輸入医薬品及び輸入医療用具の品質保証に関する基準（案）について

現在日薬連より提出された意見等を夏頃を目途に整理中。

2. 一般用漢方・生薬製剤GMP自主基準について

平成4年3月31日付薬監第23号にて課長通知として出され、11月の第12回医薬品GMP研究会にて説明される予定。

3. GMP二国間協定等について

- オーストラリアより二国間協定を結びたいとの申し入れがあった。
- PICへの加盟については、PICより会議への参加要請があり、前向きに検討している。

以上の活動は日薬連GMP委員会を通して行っているが、GMPの国際化、高度化に向け今後とも十分検討していく必要があります。

(株式会社ツムラ 医薬品静岡工場)

流通委員会

委員長

鈴木国之

昨年後半より一般薬業界は減速経済の中で大変厳しい状態にさらされております。また、大店法改正や独禁法の運用強化による流通構

造の変化と小売競争の激化はますますエスカレートするものと思われ、我々流通委員会としては的確な情報分析、状況判断による適正な対応策を講ずるために精力的な活動を展開いたしたいと思っております。

これ等をふまえ5月14日、家庭薬流通懇談会並びに全家協流通委員会が神戸市で開催されましたので、審議事項をご報告させていただきます。

1. 日本医薬品卸業連合会一般薬流通委員会の活動について

第2回の全家協流通委員会との会合が平成3年10月15日に開催されました。その内容は①「一般薬市場の活性化と流通近代化」をめぐって

②一般薬の価格体系について

③メーカー、卸商の受発注業務の合理化について

④物流コストの公正な負担について

上記議題につき相互に協議が行われ、メーカー、卸、小売そして消費者のそれぞれ負担すべきコストを、それぞれの立場や条件を互いに理解し合理的に分担して流通の近代化に寄与したいと思っております。また、卸において小売店との受発注業務をEOSによって行うよう進めているが、メーカーにおいてもEOS化に是非協力して欲しいとの要望が出されております。

2. 日本大衆薬工業協会コード問題委員会の中に設置された卸問題小委員会（新薬部会、家庭薬部会）について

従来は全家協流通委員会がその窓口となり日本卸等と会合がもたれておりましたが、この度、大衆薬協の傘下にあるコード問題委員会の中に卸問題小委員会が設置され、新薬部会と家庭薬部会に分れ、卸問題を検討することになりました。日本卸としては当初、経営圧迫の問題点として物流費高騰、高金利、人手不足の3点をあげておりました。しかし最

近の経済環境の変化に伴ない、幾分緩和されて来たとはいえ、まだまだ経営圧迫で困っているとのことで、全家協としては出来るだけの協力をしたという理事会の意向があり(1)卸の実態を知るための経営分析(2)第二回の懇談会に提出された課題を解析するように全家協の流通委員会に諮問されました。

これにつき本年は実行に移すための具体的な行動をする予定にしております。

3. 公正取引委員会関係について

問題としては大別して(イ)ガイドライン〔7月〕(ロ)大店法問題〔1月〕(ハ)再販の3つがありますが、ガイドラインについては大衆薬協より見解が出ており、ガイドラインに沿った準則を各社毎に作成し、運用をして欲しいとのことです。

再販についてはこの一年間再販護持に各団体において積極的に取り組んで来た問題であり、メーカーは大衆薬協を窓口として強力に再販護持を公取に働きかけてまいりました。

その結果、公正取引委員会より4月15日付で再販品の見直し結果が公表されました。それによりますと再販品の一部に指定取消し、あるいは期間をおいての取消しがあるものの、

その他は再販指定存続と決まりました。我国内外の厳しい環境をみると、医薬品業界にとっては誠に望ましい見直し結果と考えられ、今後はいかに再販制度を守っていくか、各社において最大の努力を傾注し価格維持、おとり販売の防止、おとり広告等につき、効果的な処置をすることといたしました。

4. 全国医薬品小売商業組合連合会(全商連)関係について

再販護持の仕事で去年は経過しましたが、今年も大衆薬キャンペーンが開催され、ヘルステーション宣言を中心に動きがあるものと思われれます。その他ヘルスギフト券、おとり販売等につき報告がなされました。

また、東薬連研修会、同三者懇談会、近畿流通懇の動きも資料に基づき報告がありました。

以上で第31回家庭薬流通懇談会並びに全国家庭薬協議会流通委員会の検討議題についてご報告申し上げましたが、今後は流通問題の改善や再販品の対応等、早急に解決せねばならぬ問題が山積みしておりますので、流通委員会としては卸、小売と積極的情報交換を行い善処に向け努力いたしております。

(株式会社トクホン 専務)

会員会社訪問

愛に科学をそえて



エーザイ株式会社

東京都文京区小石川 4-6-10

創業

昭和11年、内藤豊次氏がエーザイの前身である合資会社桜ヶ岡研究所を設立。16年、日本衛材(株)を設立。30年、社名をエーザイ(株)に改称。

創業精神

よい研究からは、よい製品ができる。
(中略)世界の国々の多くの人々の健康福祉に大きく寄与する。

社章

動脈と静脈から心臓を中心に一刻も休まずに活動し続けている様子を表現している。

日本を代表する研究開発型の製薬企業としてつとに知られる。21世紀に向けてヒューマンヘルスケア企業を目指している。



代表取締役社長
内藤晴夫
昭和22年生まれ
慶応義塾大学
商学部卒業
ノースウエスタン大学
経営大学院卒業

広告委員会

委員長

山崎 寅

ここ数回、この項で「最近の医薬品広告は以前に比べて大分お行儀がよくなり違反件数も少なくなってきた」と申しあげておりましたが、昨今、そうでもなくなってきたのが残念です。

たとえば医薬品広告でありながら「効能」をいわない広告が散見されます。せっかく医薬品広告には効能表示が認められているのにそれを放棄するのはどうかと思います。

広告の中で二つ以上の効能を表示しなければならないということを誰でも知っている筈なのに、単なるミスタイクとは思われない広告をなさっているところがあります。

また、最近、業界内での医薬品広告の話題として、滋養強壯剤のタレント使用。つまり「スポーツ選手、アクションスター」を登場させてよいか否かということがあります。

以前は有名野球選手がその滋養強壯剤をのむと、ホームランが量産できる印象があるとか、有名剣豪スターが出ると、そのスターの役どころのように悪人をバツバツとなぎ倒すことができるようになる印象があるとかいうことで禁止されたものでした。

しかし、今の世の中、そういった常識(?)が適用するののかということがひとつにあります。この件に関しましては、そろそろ業界でも検討しなければならない時期にきているような気がします。

最近では、今までOTCの広告をなさっていなかった企業の医薬品の広告が目立ちます。やはり、そういうところに我々が守ってきた広告規制に比べて「ちょっと違うな」という感じのものがああります。

それに、このところ広告規制を充分ご存知な筈の大手メーカーの「違反まがいの広告」が目立つのも気になります。

(株式会社金冠堂 社長)



会員会社訪問



大木製薬株式会社

東京都千代田区神田鍛冶町 3-3

創業

万治元年(1658)、江戸両国広小路に大木口哲翁が五臓圓本舗・大木口哲本店を開業。明治29年、大木合名会社を創立。昭和45年、大木製薬(株)を設立。(株)大木より製造部門を分離独立)

社是

和協、誠実、奉仕

社章

大きな木を表す大木と社名をアルファベットで図案化したもの。

湖龍齋の処方による大木五臓圓は330有余年を越える我が国でも指折りの伝統を有する家庭薬として知られる。乗りもの酔予防薬トリブラがメイン商品で、近年はコンタクトのソリューション等、新規事業への進出が盛んである。



取締役社長
田中 貞文
昭和22年生まれ
関西大学大学院
工学研究科卒業

労務委員会

委員長

古本 清志

過去の景気後退に比べて実態がわかりにくいために“新型不況”と呼ばれる景気低迷のなか、産業、企業を取り巻く情勢は厳しく、先行きの見通しも難しい状況であるが、労務情勢に関しても、景気低迷への対応、特に賃金の取扱いに苦慮するところである。

今年の昇給交渉では、景気後退による業績の落ち込みを反映して、昨年に比べて金額、アップ率ともに下回る結果となり、回復の兆しのない中で厳しい対応に迫られている。

このような状況下において、労務委員会では、秋山錠剤、河合製薬、堀内伊太郎商店、わかもと製薬、イチジク製薬、救心製薬、養命酒製造、太田胃散、トクホン、龍角散、原沢製薬、ツムラの12社が定例会議を開催して労務関係の諸問題について検討してきた。

3月の定例会議では、昇給交渉に関して各

社の状況を話し合い、最新の情報を交換した。さらに、初任給や定年延長に伴う給与や退職金への関心が強く、賃金について幅広く話し合うことになった。情勢の変化がさまざまなところに影響を及ぼしていることがわかる。

また、4月から施行された育児休業法への対応についての措置や処遇面の取扱いについて、対策を検討した。

6月の定例会議では昇給交渉総括と題して、各社の交渉の経緯や結果を説明して、各々反省を含めて今後の参考とした。

また、賞与交渉についても交渉中のものも含めて現時点の状況を話し合い、今後の対策に役立てることとした。各社とも業績低下の厳しい局面の中で交渉の苦労が見られ、景気が回復するまで、じっと耐えようとする姿勢が感じられた。

次回9月の定例会議は場所を伊豆に移し、気持ちを新たにして、諸々の人事労務問題について話し合う予定である。さらに、各委員の懇親の場をしたい。各社にはそれぞれの事情があるが、労働情勢の変化に強い関心をいただき、その対応いかんによって、企業に及ぼす影響が大きいことを知っている。

会員会社訪問



株式会社オーヤラックス

東京都千代田区二番町12

創業

昭和24年ジョン・アキノリ大谷氏がオーヤ商会として神田工場を設立。37年(株)オーヤラックスに改組。42年、千代田区四番町に移転。53年、現在地へ。

理念

豊かな生活環境をめざして

社章

人間の健康は太陽の恵みによってもた

らされるとのことから太陽をシンボライズし、社名をデザインしたもの。

消毒殺菌剤ピューラックスをはじめ、飲用水滅菌装置、薬液注入装置の開発、製造、販売など、多角的に環境衛生、食品衛生に取り組んでいる。クレンリネスの総合企業として業界の内外から広く注目されている。



代表取締役社長
丹羽信夫
昭和10年生まれ
法政大学
経済学部卒業

変化への対応という各社共通のテーマについて、お互いに情報や意見を交換して、問題解決の糸口として、労働情勢の変化に適切に対応していきたい。

(株式会社ツムラ 人事部長)

総務・財務・事務改善委員会

総務委員長 宮川修市
財務委員長 中村源三
事務改善委員長 市川量雄

総務委員会・財務委員会及び事務改善委員会の活動状況について、以下のとおりご報告いたします。

【総務委員会】

総務委員会は、去る4月15日に下記のとおり第45回通常総会に関する事項を中心に協議を行った。

総務委員会

開催日時：平成4年4月15日（水）

午後2時～5時

開催場所：組合会議室

- 協議事項：1.平成3年度事業報告案
2.平成3年度決算報告案
3.平成4年度事業計画案
4.平成4年度収支予算案
5.その他

当日は、特に堀泰助理事長にご臨席を賜り、冒頭、東京都家庭薬工業協同組合の事業運営を一層合理化・活性化していく上で必要な改善事項について種々検討を行った。

その一つとして、総務委員会が統括する事業計画の中、第2項に規定する「総会・理事会に関する事業」の内容をさらに充実したものとする必要があるのでという事で活発な意見が交わされた。

その結果、総会に上程される前年度の事業報告、決算報告並びに当年度の事業計画、収支予算などの案の作成に当たっては、従来、総務委員会と財務委員会の両委員会が合同で審議をしてきたが、一般的には総務所管で進めることが通例であることも含め、今後は総務委員会の重要な業務の一つであるとの認識のもとに、当該作業を全面的に行うこととなった。

第45回通常総会に関する上記協議事項につ

会員会社訪問



河合製薬株式会社

東京都中野区新井2-51-8

創業

大正12年、河合亀太郎氏が河合研究所並びに河合製薬所を深川に創立。空襲で焼け出され、戦後、中野区に移転。

創立の精神

わが社は健康教育に奉仕する精神で創立以来一貫している。他社のようにもつうけることばかりが目的ではない。栄養の合理的摂取、それによる健康増進、

体位、体力の向上に寄与するよう努力することが年来の宿願である。(後略)

社章

ベンゼン核の中に創業者・河合亀太郎氏の名前に因み亀を図案化したもの。

肝油ドロップのトップメーカーで、小学校、幼稚園等のルートを通し健康教育に多大な貢献をしている。



代表取締役
河合和彦
昭和3年生まれ
成蹊大学
政治経済学部卒業

いては、詳細にわたり検討を進め、最終案をそれぞれ作成した。

さらに今後の理事会及び総会開催の日程について協議を行った。

【財務委員会】

財務委員会は、当組合の所有する会館の各賃貸料及び営繕関連事項について見直しを検討するなど必要に応じて協議し、東京都家庭薬工業協同組合の引き続きの健全運営に資するよう努めている。

【事務改善委員会】

事務改善委員会は、去る2月18日、下記により委員会を開催して、今後の業界及び会員会社における事務関連事項の一層の合理化改善に協力していくことにしている。

事務改善委員会

開催日時：平成4年2月18日（火）

午後2時～4時

開催場所：組合会議室

協議事項：1. JANコードの設定基準案について

2. 物流コード創設基準案について

3. その他

すでに、業界内に定着しているJANコードは、日常的に運用されて各委員会社内においても事務の合理化改善にその効果を上げてきているが、コード設定の方法など一部に未統一の部分があることから、さらに設定基準を明確化する目的で、来る平成4年の夏頃には、『JANコードの設定基準（案）』が決定される運びとなっている。

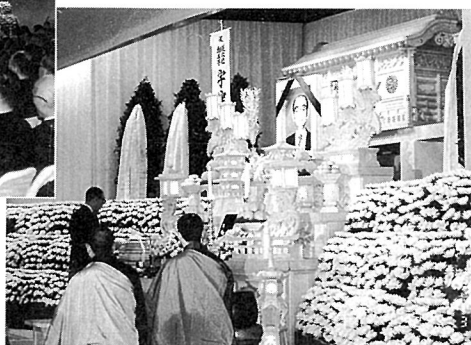
また同時に『物流コード創設基準（案）』も平行して策定される経緯にあるので、今までの経過について各委員に詳細報告するとともに、当組合の今後における具体的な対応などについて、種々協議を行った。

（株式会社金冠堂 市川専務）

しめやかに執り行われた宇津副理事長の社葬



▲葬儀会場・青山葬儀所



弔辞を読みあげる堀葬儀委員長▶



追悼

故宇津副理事長の遺徳を偲んで

堀 泰助

当組合副理事長 宇津 廣さんは、春まだ浅い3月11日療養中の国立医療センターにおいて、静かに70年の生涯を閉じられました。

宇津さんは大正10年11月宇津家第16代権右衛門氏のご長男として、栃木県高見沢町にお生まれになりました。

昭和16年12月東京薬学専門学校をご卒業と同時に、帝国臓器製薬株式会社に勤められましたが、20年4月応召、終戦後間もなく復員されました。戦後の混乱期に、家業を継ぐべく宇津権右衛門薬房の取締役工場長に就任され、卓越した識見と先見性をもって経営にあたられたのであります。

社業は順調に推移していたのでありますが、とかく成長の影に好事多磨しと謂われるように、経済不況の影響により2度にわたり経営不振に陥りましたが、その都度宇津さんの非凡な経営手腕と理解ある協力者によって、危機を脱することができたのであります。

昭和31年社名を宇津救命丸株式会社に変更され、34年代表取締役社長に就任、決意を新たに経営の近代化に取り組まれると共に、宇津救命丸創製に立ちかえり、薬の生命である原料の精選と製法の改良に心血を注がれたのであります。

宇津さんのひた向きの経営努力と優れた医薬品の提供が、需要者の信頼を生み、名実共に小児専門薬のトップメーカーとしての地位を築き上げられたのであります。

昭和63年ご子息に社長の座を譲り、会長に退かれて後進の指導にあたっておられました。

宇津さんの薬業界におけるご活躍は、当組合の副理事長をはじめ全家協の常任理事、日薬連評議員などの要職を歴任し、豊かな経験と指導力を発揮され、とりわけ家庭薬業界の

発展と地位向上に尽くしたご功績は誠に顕著なものがあります。

ご逝去にあたり、従六位勲五等双光旭日章を賜りましたのは、生前残された偉業を国家が高く評価し、顕彰されたものであります。

私は、20数年来お付き合いいただきましたが、生涯「酒と音曲」を愛した宇津さんと屢々お座敷で盃をかたむけ、時局を語り、事業経営について熱心に意見を交わした思い出は尽きません。

宇津さんがお亡くなりになる2ヵ月前、病院にお見舞にお伺いした折、1年前に約束された、私の古稀祝いと十二支の水墨画展を実現しようとおっしゃるのでした。ご容態からして固辞しましたが、人情に厚く、面倒みのよいご性格なので、どうしても聞き入れては貰えませんでした。

そして、病床から知人に準備を依頼され、2月14日ある料亭に有志10数名が集まり、心のこもった祝宴を催していただいたのであります。ご本人がご出席できなかったことは大変残念でしたが、ご子息が宇津さんの代理を立派に勤めてくださいました。数日後、当日の写真を病床でご覧になり、心底満足されておられたとお聞きし、温かい友情に甘えてよかったとつくづく感じた次第であります。

温厚で誠実、強い信念と実行力のある稀にみる人格者を失ったことは、薬業界のみならず国家社会にとりましても大きな損失であり、惜まれてなりません。

永年にわたって薬業界の進歩発展に尽くされたご功績に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(救心製薬株式会社 会長)

「べに花路を訪ねて」

広報委員 旦 正昭

平成4年6月15日、仙台市郊外の秋保温泉ホテル佐勘において、当組合の理事会が開催されました。

杜の都仙台駅より車で約30分、秋保温泉の中でも千年の伝統と格式、ひととき威容を誇るホテル佐勘での理事会、引き続いて懇親会が行われ、参加者の親睦を深めました。

将棋の駒作りの実演に感嘆

翌日午前9時ホテルを出発、バスはべに花路へ向いました。すばらしい好天に恵まれ、緑一色の風景を楽しみながら、宮城県と山形県の県境にある関山峠を越え、最初の訪問地天童市が近づくにつれ、道の左右に色づいたさくらんぼが数多く見られました。

山形県は果物作りの盛んな土地柄であり、りんご・ぶどう・なし・柿・桜桃（さくらんぼ）、桃等年間約17万トンの生産がされているそうです。

天童市の将棋堂で、将棋の駒作りの実演を見学しました。当地での将棋の駒作りの歴史

は古く、もとは武士の内職として始まり、現在では、全国の97%を生産しているそうです。

春には、満開の桜の下で人間将棋が行われ、観光客が大勢集まるそうです。ここで、有名な「左馬」の由来につきましてご紹介いたします。

元来、馬は右から乗るとつまずいて転ぶという習性をもっており、左から乗るものなので、左馬は長い人生をつまづくこともなく過ごすことが出来、昔から福を招くめでたいもの、商売繁昌の守り駒や根付駒として人気を博しています。

また、馬の字が逆に書かれていることから、ウマの逆はマウ（舞う）であり、古来舞いはめでたい席で催されることから、縁起のよい招福の駒とされています。

左馬の下の部分が財布のきんちやくの形をしており、口がよく締って、入った金が散逸しないことから、富のシンボルとみられています。普通、馬は人に引かれますが、逆に馬に引かれて人が入ってくるというので、客商売にとっては、千客萬来の招福駒であります。



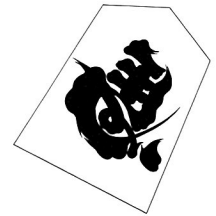
◀奥の細道
立石寺で



▼上杉家御廟所



▲芭蕉の句碑（山寺）



馬が元来左から乗るものであるということから、左馬は乗馬をシンボルするものであり、これを持つ者は競馬に強いと言われています。

童心に帰ってさくらんぼ狩り

次に2番目の訪問地、天童国際果樹園へ移り、さくらんぼ狩りを楽しみました。庭園の池の人面魚を横目に見て、数分間の説明を聞きました。さくらんぼの種類は13品種あり、現在1番人気があるのは「佐藤錦」という品種であるとのこと。

今年は平年より1週間から10日位遅れ気味とのことですが、それでも、たわわに木になっている甘酸っぱいさくらんぼを堪能し、一行は童心に帰ることができました。

閑かさや岩にしみ入る蟬の聲

3番目は、山形市の山寺として有名な宝珠山立石寺を訪れました。山寺は今から1千百余年前の貞観2年(860年)、第56代清和天皇の勅命をうけ、天台宗第三祖の慈覚大師円仁により、初めて開かれたお山です。山寺の全山は、山寺式第3紀層凝灰岩からなって、新緑に紅葉にその景観がすぐれているところからその名があるゆえんで、地方信仰の集権の中心として栄え今日に至っています。

元禄2年、俳聖松尾芭蕉が奥の細道を行脚の途、山寺を訪れ、「閑かさや岩にしみ入る蟬の聲」の名句を残し、広く世に知られています。

斎藤茂吉に感動

昼食後、4番目に上山市へ向い、斎藤茂吉記念館を訪れました。記念館では、医師としてアララギ派歌人として、明治・大正・昭和の3代に激動の人生を送った斎藤茂吉の文業や生活を伝える興味深い自筆の書画・原稿・映像などの資料を展示公開中であり、その人柄に接することが出来ました。

特に迫力のある3面マルチスライドによる「斎藤茂吉の世界とその時代」の映像には感動するものがありました。

上杉家御廟所で心打たれる

最後に米沢市にある米沢藩主上杉家御廟所を訪れました。国の史跡として指定されており、上杉家12代の藩主の墓所であり、12の廟屋が、初代上杉謙信公を中心に2代景勝公以降、最初に約370年前に建立されたものから、順位が左と右に交互に配置されています。その建築様式の対比と、米沢藩主としての上杉家の変遷を見るようで、見るものの心を打つものがありました。

この後は、米沢から栗子峠を越え、福島駅に着き、一行全員で東北新幹線に乗り無事帰京しました。

以上、山形べに花路を一気に駆け抜ける旅でありましたが、本当に充実した心に残る旅でありました。

(株式会社ツムラ 総務部)

第45回通常総会から

第45回通常総会が、5月28日、日本橋倶楽部で開かれました。その模様を写真でお届けします。



▲就任の挨拶をされる堀理事長



▲懇親会で乾杯の音頭（太田相談役）



▲懇親会を終えて記念写真

盛大に開かれた「くすりの歴史展」



「くすりの歴史展—家庭薬」が、7月27日～31日の5日間にわたり、東京薬事協会で開催され、活況を呈しました。



家庭薬のルーツ「江戸のきぐすりや」をテーマに講演される吉岡先生



▲ 展示会場風景



編集後記

広報委員も今年度、今田(養命酒)、加藤(救心)の両氏にツムラの足立さんから、且正昭さん(本号・べに花路を訪ねて……に登場)に交替、宇津救命丸の広瀬さんは残念ながら退職で引退されたが、委員の熱意は高まるばかりである。

本号には長老津村最高顧問と老舗紀伊国屋漢薬局の土田社長の知られざる漢方・家庭薬の昔話が活字化された。盛り沢山の内容を切り詰めたが、一部を次号に譲らざるを得ない。

理事長の決意、各委員会の活躍を含め、会員諸氏のご参考になれば幸いである。

個人的なことで恐縮だが、6月欧州旅行をした際、妻の歯痛と小生の不注意による打撲傷に今治水、メンタム等の家庭薬のお蔭で、薬の有難さ、日本の家庭薬の利便性を痛感した。

欧州の薬局の落ち着いた姿を見て、日本の小売店との差異にも感無量であった。

(三共ゾーキ・友田)

事務局だより

通常総会報告

平成4年5月28日、日本橋倶楽部において第45回通常総会を開催した。議案の審議に先立ち、堀理事長が挨拶を述べた後、議案の審議に移り、平成3年度事業報告決算関係並びに平成4年度事業計画、収支予算、その他の議案を承認、可決した。

なお、最後の議案は定款の定めに基づき全役員が本総会の終結の時をもって任期満了により退任するため、新たな役員を選出が行われた。選考については慣例に従い、指名推薦制とし、議長が選考委員3名を指名しその方々が理事18名、監事3名を選出した。

新役員が決まり、理事長および副理事長2名を選任するため臨時理事会を開き、互選により

理事長 堀 泰助 (重任)

副理事長 塩澤 護 (重任)

副理事長 津村 昭 (新任)

以上の3名が選ばれ、それぞれ就任された。

堀新理事長は就任の挨拶として

「私ども家庭薬業界は国民の健康志向の高まりによって軽医療が見直されているが、他産業からの参入等によって伸び悩んでいるのが現状である。

この新しい市場競争に打ち勝つためには商品力のある製品開発と自販力の強化が最も重要な課題である。

どれをとっても難しい問題であるが、これらのことを真剣に取り組まなければ家庭薬の活路は開かれない。

組合員各社の事業の繁榮なくして組合の発展はない。一層、結束をかため、当局のご指

導と組合員のご協力を得て組合のさらなる充実と発展のために決意を新たに、事業を推進したい」

と述べられた。

総会后、引き続き、懇親会を行い盛会裡に終了した。

◆組合員移動

入会：アース製薬株式会社

退会：東海貿易株式会社

◆訃報

宇津 廣様

当組合副理事長で宇津救命丸株式会社代表取締役会長の宇津廣様(70歳)には、かねて病氣療養中のところ、3月11日午前2時25分死去、3月14日正午から東京・新宿区の太宗寺で喪主善博社長により密葬、社葬は4月3日午後1時から東京・港区の青山葬儀所で、堀泰助理事長の葬儀委員長により、しめやかに執り行われた。

河原弥太郎様

当組合評議員で三恵製薬株式会社会長の河原弥太郎様(68歳)はかねて病氣療養中のところ、6月5日午前8時45分死去、6月8日正午から東京・渋谷区の法雲寺で喪主妻和子さんにより葬儀がしめやかに執り行われた。

鈴木宗一様

当組合理事会社、株式会社トクホン前取締役会長の鈴木宗一様(87歳)には、かねて病氣療養中のところ、6月9日午後9時57分死去、6月11日、東京・江東区の自性院で喪主長男規允社長により密葬、社葬は東京・文京区の護国寺桂昌殿で7月3日午後1時から堀泰助理事長の葬儀委員長により、しめやかに執り行われた。

謹しんでお悔みを申し上げます。

かていやく

通巻51号 1992年8月30日

編集人：かていやく広報委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104東京都中央区銀座8-18-16

電話 03-3543-1786 FAX03-3546-2792
